

地域に向けた取組について

1. はじめに

平成 22 年度生態系調査報告会及び第 2 回科学委員会において、科学委員会の取組の地元への還元について議論がなされ、それを踏まえて平成 22 年度地域連絡会議にて「地元との連携・協働、科学的知見の地域への還元について」が議題として扱われた。

そのなかで、今後の方向性について、事務局より主に以下の内容を提案した。

効果的な広報手法の検討。

地元関係団体との連携による普及啓発等の実施の検討。

科学委員会による講座（野外での開催も含む）の開催や、生態系調査報告会の地元開催について検討。

2. 平成 23 年度の科学委員会の地域に向けた取組について

平成 23 年度は、上記の事務局提案に基づいて、2 つの地域に向けた取組を実施する予定である。

1) ニュースレター（知床科学委員会しんぶん）の発行

科学委員会及び各 WG 等で議論された内容を、A4 両面のニュースレターとしてまとめて、地元広報を用いて全戸配布するとともに、宿泊施設やビジターセンターなどの主要な利用施設に配布するもの。

各 WG 等で基本的に統一のフォーマットを用いることとしており、策定主体の役割分担は下記のとおり。

会議名称	担当
知床世界遺産地域科学委員会	釧路自然環境事務所（受託者：知床財団）
エゾシカ・陸上生態系 WG	釧路自然環境事務所（受託者：知床財団）
海域 WG	北海道、釧路自然環境事務所
河川工作物 AP	北海道森林管理局（受託者：エコニクス）
適正利用・エコツーリズム検討会議	釧路自然環境事務所、北海道森林管理局、北海道
ヒグマ保護管理方針検討会議	釧路自然環境事務所（受託者：知床財団）

現時点で、作成されたものは、6 月 12 日に開催されたエゾシカ・陸上生態系 WG に関するもののみ（参考資料 1）。

2) 地元報告会（自然遺産しれとこ「科学教室」）の実施

平成 23 年度は、3 回の地元報告会を予定しており、桜井委員、牧野委員（海域 WG）、中村委員、石川委員の 4 名の方々に講演をお願いしている。

詳細については資料 5 - 2 を参照。